

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-07-27

なし

(発行年 / Year)

1910

四貸席及ヒ樂遊場ノ債權も原文ニナキトヨナレトモ此等ノ債權ト旅店料理店等ノ債權トハ同種ノモニシテ快シテ其時效二年ト(證據編ハ二ヶ月)二十年(證據編ニハ三十年商法ニハ六年ノ)大差ヲ設クヘキモノアラサルカ故ニ之ヲ加へ其時效ヲ通レテ一年トタルナリ

- 第二編 物權
- (理由) 本編ハ既成法典附編第一部ニ掲タル主タル物權及ヒ債權擔保編ニ掲タル物權ニ關スル規定ヲ併合スルモノニシテ特ニ既成法典ヲ修正シタル點ハ用益權、住居權及ヒ賃借權ヲ則除シタルニ在り又物權ニ關スル特別ノ取得方法ニシテ既成法典所取得編ニ規定タル所ノ條項ハ必要ニ應シノヲ抽出テ本編ニ編入セリ
- 本編ノ物權トハ財產權ニレテ物ノ上に行ハレ總アノ人ニ對抗スルコトヲ得ル權利ヲ云フ故ニ生命身體榮譽自由等ニ關スル權利ノ如キハ之ヲ包含セス蓋此等ノ權利ハ不法ノ行爲不正ノ損害等ニ關スル規定ニ依リテ間接ニ保護ヲ受クヘレト雖之ノ一種ノ物權トシテ直接ニ保護スルコトハ本來ノ採ツク所ナリ故ニ本編ニ請テ所ノ物權ハ狹義ノ意味ニ於テ財產ニ關スル權利ニ限ルモノトス
- ### 第一章 總則
- (理由) 本章ニハ物權全體ニ通アル概則ヲ掲ク故ニ物權ノ創設得喪ニ關スル規定ニシテ一切ノ物權ニ適用スヘキモノハ總アノ經緯シテ之ヲ記載セリ既成法典ハ合意結果トテ物權ノ得喪移轉ニ關スル規定ヲ附産編第二百九十一條第三百三十一條第三百四十八條等ニ掲ケタリ是モ此等ノ規定ハ固ト物權ノ通則ニ屬スモノナレハ本編ニ於アハ之ヲ物權ノ總則中ニ掲タルコトトセリ
- ### 第一百七十五條 物權ハ本法其他ノ法律ニ定ムルモノノ外之ヲ創設スルコトヲ得ス
- (理由) 抑モ物權ハ總アノ人ニ對抗スルヨリ得ヘキ強力ノ權利ナムヲ以テ若各自カ隨意ニシヲ創

設シ得トスルトキハ公益ニ反スル弊害ヲ生スルコトヨリ論ヲ俟タス之レ本案ハ總則ノ主條ニ於物權ハ法律ニ定ムルモノ、外之ヲ創設スルコトヲ得ス、規定シ其種類ハ限製的ノモノナルコトヲ明示レタル所以ナリ故ニ本條ハ其裏面ニ於テ第一ニ物權ハ人意ニテ創設シ得サルコトハ質權留置ニ依リ、成立シ得サルコトヲ示レ第三ニ諸國ノ法典并學說上ニ存ヘル義理ノ一端即チ質權留置權先取特權ノ如キハ人權ナカニ將ク物權ナカルカニ疑問ヲ決定シテ此等ノ權利ハ本法ニ依リテ物權タルコトヲ示セリ

本條ニ於本法未他法律ト云フ所以物權ノ創設ハ主トレテ本法ニ規定ニ依ハコトヲ示スト共ニ著述者ノ權技術者ノ權ノ如キ本法以外法律ニ依リテ創設セラル權利アルヘキコトヲ示スノ意ニ出アリ又本案ハ既成眞用資編第一條ノ如ク物權ノ種類ヲ列舉セラルハ今後法律ニ依リテ物權ヲ創設スルトコトヲ妨ケサル爲ニシテ獨逸民法第一草案ノ如ク處分權ナキ所有權ノ意思ニ因リテ創設スルトコトハ斯ムト規定期間ヨリ物權ノ隨意創設ヲ禁スル方法ニ取ラサリシハ之レ立法ノ主義ニ付キルコトヲ得サル處アシテ以チナリ

第一百七十六條 物權ハ別段ニ定ムアル場合ヲ除ク外當事者ノ意思ノミニ因リテ之ヲ設定期間内移轉スルコトヲ得

(理由) 物權ハ單ニ當事者ノ意思ニ因リテ設定シ又ハ之ヲ移轉シ得ルヤ將タ目的物ノ引渡シヲ要スルヤニ付キ諸國ノ立法ノ主義ハ二派ニ分レ從テ實際上大ニ利害ノ關係アリスル事例ノ存スルヲ見ル而シ

我國今日ノ狀況 在テハ此ノ如キ規定ハ徒ニ取引ノ不便ヲ生スル過キサルヲ以テ本案ニ於テハ

實際上ノ便宜ヲ圖ル當事者ノ意思ノミニ因リテ之ヲ移轉スルコトヲ得ルノ主義ヲ採レリ
實例ニ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第一百七十七條 不動產ニ關する物權ノ得喪及ヒ變更ハ登記法ニ定ム所ニ從ヒ其

(理由) 本條ハ第百七十九條ノ例外トヨリ得スヘキモニニテ第百七十六條ノ規定ニ依レハ物權ハ當事者ノ意思ノミニ因リテ設定又ハ移轉スルコトヲ得シテ第三者ニ對抗レテ其效力ヲ主張シ得ヘント雖

モ若レ此原則ニ絶対的適用スルトキハ第三者ハ爲メニ不測ノ損害ヲ蒙リ更上種々弊害ヲ生スル虞アリ故ニ本案ハ不動產ニ關する物權ノ得喪及ヒ變更ニ付テハ特ニ本條ノ規定ニ依リテ第百七十條ノ原則ヲ制限スルモニレテ物權ハ當事者ノ意思ノミニ因リテ設定又ハ移轉スルコトヲ得ハト雖モ之ヲ以テ直ニ第二者ニ對抗シ爲メニ不利益ヲ被ラレムルコトヲ得ト爲リ然レトモ一旦登記法ノ規定ニ從ヒ公示ノ手續ヲ盡シタル以上ハ第三者カ善意タルト惡意アルトヲ問ハズ總デクナリテ物權ニ對抗スルコトヲ得ヘント

第一百七十八條 動産ニ關スル物權ノ讓渡ハ別段、定アル場合ヲ除ク外其動産ノ引渡ナルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗タルヨ、ヲ得ス

(理由) 本條モ第百七十九條ノ原則ニ對スル例外トモ稱ズヘキモノニシテ第百七十九條ト同一ノ趣旨

ニ木フキ動産ニ關スル物權讓渡ノ場合ニ於テ公私上ノ必要ニ因リテ規定スルモノナリ既成法典第三百四十六條ハ木條ト同一ノ主義ニ出フト雖モ其適用ヲ特別ノ場合ニ限ル反し本條ハ廣く動産ニ關

スル物權讓渡ノ場合ヲ包含セリ又同條第二項ハ無記名證券ニモ第一項ノ規定ヲ適用スヘキコトヲ示

スト雖セ之或ハ債權讓渡ノ規定ニ屬スヘキモノニシテ物權ノ總則ニ掲クハ不適當ト認ムルヲ以テ刪除セリ

物件引渡ス効力ニ付テハ學者或ヘ之ヲ以テ權利移轉ノ方法トシ或ハ單三公示ノ方法タルニ過キスルモノト認ムルモノナレハ本條ニ最ケル要義也亦單三公示ノ方法タルニ過キサルモノナリ只

其引渡ナキトキハ物權ノ讓渡ヲ第三者ニ對抗シテ之ニ利益ヲ被ラシムルヲ得サルモノトス

ス本案ハ既ニ第百七十九條ノ原則ニ從ヒ當事者ノ意思ノミニ因リテ有效ノ物權ノ設定又ハ移轉シ得ルコトヲ認ムルモノナレハ本條ニ最ケル要義也亦單三公示ノ方法タルニ過キサルモノナリ只

其引渡ナキトキハ物權ノ讓渡ヲ第三者ニ對抗シテ之ニ利益ヲ被ラシムルヲ得サルモノトス

第一百七十九條 同一物ニ付所有權及ヒ他ノ物權カ同一人ニ歸シタルトキハ其物權ハ消滅ス但其物又ハ其物權カ他ノ權利ノ目的タル場合ニ在ラズ

所有權以外物權カ他ノ權利ノ目的タル場合ニ在ラズ

タルトキハ前項ノ規定ヲ準用ス

前二項ノ規定ニ之ヲ占有權ニ適用ナシ

(理由) 本條ハ物權ノ消滅ニ關シ占有權以外ノ總アノ物權ニ適用スヘキ通則ニ定ムルモノトス蓋諸種

ノ物權中所有權ハ其範圍最モ廣く目的的全體ノ關係ヲ擧ケテ其效力ニ歸セレルニ反し他ノ物權ハ目的的物ノ一部ノ關係ニ限リテ其效力ア及ホスニ過キスト雖モ既ニ此等ノ物權ハ互ニ獨立シテ其存

ヲ保フ以上ハ假令同一物ニ付所有權其他ノ物權カ同一人ニ歸スルモ之ニ因リテ其物權ハ當然消滅

スルモノニアラシテ理論上尚ホ存續シテ成立スルモノト云ハサルヘカラス而シテ苟モ此物權ニシテ尙ホ存立スルトキハ之ニ關係ニ法律上ノ諸關係モ亦消滅スルコトナクレバ徒ニ法律上ノ狀況ノ混雜フニ過キス之レ本條ノ明文ヲ要ヘル所以ニレテ同一物ニ付所有權他ノ物權カ同一人ニ歸セレルニ

スル場合ニ於テ本條ノ通則ヲ適用ストキハ物權ノ消滅ニ因リテ第三者ハ故ナク既得ノ權利ヲ害セフルニ至ルヘレ故ニ本條ハ本條第一項ノ但書ニ依リテ其例外ヲ設ケテ第三者ノ權利ヲ保全セシ

又物權中獨リ占有權ハ特別ノ性質アリ有特別ノ保護ヲ受クルモノニシテ假令所有權共ニ同一人ニ

本條第二項ハ所有權以外ノ物權ト其物權カ他ノ權利ノ目的タル場合ニ於テ双方ノ權利同一人ニ歸レタルト況シタルモニシテ第一項ノ規定トハ其場合ヲニセスト雖モ理論上ニ於テハ相異ナルコトナレ故ニ本項の場合ニ於テ第一項ノ規定ヲ準用セシムルモノナリ

歸^ル或^ヘ他^ノ権利^ヲ目的^{ナル}場合^ニ於^ク此^ノ権利^ト共^二人^一歸^{スル}モ^シナレテ消滅^セレバ必要^ニ有^ル
ナキノミナラズ古有^權ハ次章^ニ於^ク規定^{スル}如^ク諸種^ノ訴權^ヲ依リテ本權^ヲ有^無ニ關セ^ス特別^ノ保
護^ヲ受^クタルモノナレハ本條第一項及^テ第二項ノ場合^ニ於^クテ古有^權ヲ消滅^シムルトキハ此保護^ヲ失
ハシムル結果^ヲ以^テ本條第一項ニ於^クテ古有^權ハ第一項及^テ第二項ノ規定^ヲ適用^{セサルコ}

第二章 占有權

(理由) 占有ハ事實ナリヤ將權利ナリヤへ學者ノ論爭スル所ナリ。雖木案於ヲハ立法上古有
以子物權ノ一種トレニ法律保護與夫ヘモト認メタリ而テ占有ノ規定一法典中如何ナル位
置フ占ムヘキヤニ付アハ立法上見解區異タルニ拘ラズ本案ハ既成法典其他多數ノ立法例ニ倣フテ
之ヲ物權編ニ規定スト雖ニ既成法典、編纂法ニ反レニゾ本編ノ生位、置キタリ是レ他ナシ占有ノ事
實ハ殆ド總アノ物權ノ基礎ラ爲スルノシテ占有ノ保護アリテ始メ他ノ物權モ完全ナル保護ヲ
得ヘキモノナルヲ以テナリ

第一節 占有權ノ取得

(理由) 本節ハ占有権ノ取得ニ關スル規定ヲ掲タルモノニシテ特ニ説明ヲ要セサルヲ以テ此ニ既成法

典ノ條項ヲ刪除セシ理由ヲ述フルニ止メン

既成法典ハ占有・種類及ヒ得失ハコトヲ得ヘキ物ニ關シ特ニ一節ヲ設クト雖ニ其條項ハ概不必要ノ規定ニ屬ス即ち第百七十九條ノ占有ノ區別ハ學理上其必要アルベレト雖ニ立法上ニ於大規定期ナリテ認ムニ因ニ之開達せん第百八十九條ト共ニ之刪除セリ第百八十一條掲タル所正權原及ニ無權原ノ占有ノ區別ハ不採ニ非スト雖モ本來ハ他ノ條項依リテ自ラ之ヲ明ナフレムケト以テ之レカ爲メニ特ニ一條ノ規定ヘル必要ナレト説メタリ次ニ第一百八十九條掲タル所ニ萬意及ニ惡意占有ノ區別ハ保護ニ點於其程度ヲニスルヲ以テ其必要アリト雖モ此謂フ所善意及ニ惡意ハ他ノ場合ニ於ケ善意及ニ惡意同一ナルヲ以テ占有有付特ニ之ヲ規定スルノ必要アルコトナレ又現地占有ニ關スル第百八十三條ノ規定モ保護ヲ異ニ黑白點ニ以テ不必要ノ條又ニ非スト離ニ同條ノ如ク現地ノ義理ヲ致キ解説ヘルハ却テ不當ナリト云ハサヘニカラス其他百八十九條ノ自然ノ占有ニ關スル規定ハヨリ不用ノ條文ニ過キス此等ノ理由由ニテ本來ハ既成法典専用編第四章第一章第一節ノ規定ハ概不ニ附則除セリ

第一百八十九條

(理由) 本條ハ占有権取得ノ原則ヲ定ムルト 同時ニ占有権ノ性質ヲ説明スルモノニシテ既成法典第百八十九條ニ修正ヲ加ヘタルセナリ既成法典ニ占有ノ目的物ハ有體物タルト權利タルトヨ區別セス

又占有ア三級ニ分ナリ真正ノ占有ハ心素トシテ所有ノ意思ヲ要アトセリ本案ハ此ニ點ニ於テ反對ノ主
義ヲ採ルモノニシテ占有報ノ目的物ハ原則トシテ有體物限ニ權利ヲ目的トスル場合ハニニ準スル

モハニシテ又心素ハ自己ノ所有トス心思ヲ要セレバ單ニ自己ノ爲メニスル意思アルヲ以テ足アリ

トメ之レハ本案ハ占有ヲ以テノ物權ト爲シタルニ因ニ又一ハ占有者カ自己ノ利益ノ爲メニスル意思アルヲ以テ足アリ

ヲ占有スル以上ハ假令之ヲ所有スル意思ナキ、公益上既ニ法律ノ保護ヲ與フヘキ必要アリトナレ

ハナリ其他既成法典ハ目的物ヲ採取スル所爲ニ因リテ占有ヲ取得ストシモ體力ヲ以テ直接ニ目
的物ヲ掌握ス、コトヲ要スルかノ驟ヲ起サレムルヲ以テ本案ハ所持ケル文字ヲ用ヒ目的物ヘ自己ノ

力ノ範圍内ニ在レハ占有ヲ取得シ得ルコトヲ明ニセリ

~~第百八十一條 占有權ハ代理人依リテ之ヲ取得スルコトヲ得~~

~~法定代理人自己ノ意思及ヒ所爲ヲ以テ本人ノ爲メニ占有權ヲ取得スルコトヲ得~~

~~(理由) 本條ハ代理人ニ依リテ占有權ヲ取得スル場合ヲ規定スルセノニレテ既成法典附錄編第百九十~~

~~條ト其主義フニ拘泥し權利ハ代理人ニ依リテ之ヲ取得シ得ルコト更ニ疑ナキヲ以テ獨り占有權ニ~~

~~付テ如此規定ヲ設スル必要ナキカ如シト雖モ占有權ナムノハ本來事實ニ本タクセヨニシテ法律ノ~~

~~保護ヲ受クルニハ自己ノ爲メニスル意思ノ外必ス目的物ヲ持スルコトヲ要スルモノナレハ事實上~~

~~他人カ之ヲ所持スルニ於テハ法律ノ保護ヲ與フルニ足フストレ或ハ占有有体護ヲ以テ人身保護ノ一部~~

~~理由本案ハ占有ヲ以テノ物權ト他ノ權利ノ如ク譲渡シ又ハ相續シ得ルコトヲ認ムルモノナレ~~

~~ハ占有權ノ性質上其譲渡ニ關ニ特ハ本條ニ設ケテ其方法ヲ規定スル必要ヲ生シテノ即ナ占有權ニハ~~

~~自己ノ爲メニスル意思ノ外目的物ヲ持スルコトヲ要スルヲ以テ本條ニ於テ其譲渡ノ方法ヲ亦テ物~~

~~ノ引渡ニ依ラサルヘカラシトヲ示セリ若レ本條ノ規定ナキトキハ物權設定又ハ移轉ニ關スル~~

~~トシハメニ占有ニハ代理ヲ許サストノ見解ヲ取ル者少カラサルニ因リ諸國ノ法典モ占有ハ自己又ハ
代理人ニ依リテ之ヲ取得シ得ルコトヲ明ニ既成法典モ之レカ爲メニ特ニ一條設ケテ其趣ナカ
レシメタリ木案モ亦其必要アリテ信スルヲ以テ既成法典ノ如ク本條第1項規定ヲ設ケタリ~~

~~法典代理人ニ依リテ占有權ヲ取得スル場合ニ於テハ本人ハ目的物ノ所持ハ勿論占有ノ意思ヲ有ナシ~~

~~ルコトアリ或ハ意能力ナキ者アリ如斯場合ニ於テ法律ノ保護ヲ與フルニ否ニ付テハ一層疑~~

~~惑ヲ生スル處アルヘシ故ニ本案ハ本條第1項ヲ設ケテ法定代理人ハ其意思ヲ以テ本人ノ意思ヲ補充
シ之ニ依リテ本人ハ占有權ヲ得シ得レトモ明示ナリ然レトモ本條ノ規定ハ固ヨリ本人カ獨立シ
テ占有權ヲ取得スレント妨ケサルハニシテ意能力ナキ者ハ代理人ニ依リテ取得シハノ外ナシ
トシテ能意能力ヲ制限フタル者既ニ自己占有權ヲ得シ得ルコト別ニ疑ナカヘン~~

~~理由本案ハ占有ヲ以テノ物權ト他ノ權利ノ如ク譲渡シ又ハ相續シ得ルコトヲ認ムルモノナレ~~

~~ハ占有權ノ性質上其譲渡ニ關ニ特ハ本條ニ設ケテ其方法ヲ規定スル必要ヲ生シテノ即ナ占有權ニハ~~

~~自己ノ爲メニスル意思ノ外目的物ヲ持スルコトヲ要スルヲ以テ本條ニ於テ其譲渡ノ方法ヲ亦テ物~~

~~ノ引渡ニ依ラサルヘカラシトヲ示セリ若レ本條ノ規定ナキトキハ物權設定又ハ移轉ニ關スル~~

~~者ノ意思表示ノミニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得~~

~~第一百八十二條 占有權ノ譲渡ハ占有物ヲ引渡スニ因リテ之ヲ爲ス~~

~~譲受人又ハ其代理人カ現ニ占有物ヲ持スル場合ニ於テハ占有權ヲ譲渡ハ當事
者ノ意思表示ノミニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得~~

~~(理由) 本案ハ占有ヲ以テノ物權ト他ノ權利ノ如ク譲渡シ又ハ相續シ得ルコトヲ認ムルモノナレ
ハ占有權ノ性質上其譲渡ニ關ニ特ハ本條ニ設ケテ其方法ヲ規定スル必要ヲ生シテノ即ナ占有權ニハ
自己ノ爲メニスル意思ノ外目的物ヲ持スルコトヲ要スルヲ以テ本條ニ於テ其譲渡ノ方法ヲ亦テ物~~

~~ノ引渡ニ依ラサルヘカラシトヲ示セリ若レ本條ノ規定ナキトキハ物權設定又ハ移轉ニ關スル~~

通則にて置く當事者、意思ヲニ因リテ占有權ヲ讓渡シ得ヘレト誤解生スル處ナシトセ故
木條第一項ノ規定ノ如キハ百七十六條ノ兩段ノ別段ノ規定十點セモナシテ同條ノ規定スル
通則對レテ一種ノ例外ヲ定ム。

文庫第二二頁ハ合意ノミニ因リテ古有體ヲ

ナリ、雖セ第七十才ノ規定リ見ルトキハ寧ロ通則ニ復スルモ、ナリ而シテ本項ハ既成法典財産編第百九十一條第一項乃至第三項ノ規定ヲ繩括シタルモニニテ簡略ニ引及ヒ占有改定ノ場合ヲ除ク、又シテ本項ハ既存ノ財産ノ占有者ニ付与スルモノニシテ、本項ノ規定於テ規定スルヲ以テ此ニ

天寶外史

（理由）本條ハ既成法英庸編第百九十一條第三項ニ掲タル占有改定ノ場合ヲ規定スルモノニシテ前
タルトキハ本人ハ之ニ因リテ占有権ヲ取得ス

係第一項ノ適用ノナリ而レテ特ニ本條ノ設タル所以ハ代理人カ本人ニ代リテ自己ノ有セミ止有別
ヲ爾後本人ノ爲ニ占有スルコトヲ禁スル理由ナキニ拘ラス本案第一百八條ノ規定ニ依ルトキハ代理

人ハ本人三代理テ自己ト法律行爲ヲスコトヲ得サルノビテ若本館ノ明文ナキトモハ代理ノ人スル占有権ハ占有有改定ニ因リテ本人之ヲ取得シ得サル結果ヲ生スルノミナラス本條ノ規定スル所ハ

第一百八十四條 代理人ニ依リテ占有ヲ爲シ場合ニ於テ本人カ其代理人ニ對シ尙後第三者ノ爲シ其物ヲ占有スヘキ旨ヲ命シ第三者ニ承諾シタルトキハ其第三者ハ占有權ヲ取得ス

卷之三

十一

(理由) 本筋ハ師承法典財產編第百八十五條、相習ルモノニシテ既成法典、容積ノ占有ト法定ノ占
有トア別居スルヨリ以テ所有ノ意思ノ加ハル、固リテ察假ノ占有ハ法定ノ占有ニヒスト、鑑モ本案ハ斯
ノ如キ占有ト、種類ヲ認メサルニ因リ所有ノ意思有無、因リテ占有ハ其性質、鑑スルコトヲ規定ス
ル必要ナラバレテ所有ノ意思ノ有無カ占有有効果及ボス影響ハ得取時效其他異質ノ取得等ニ關ス
ル規定也、依テ既成法典ナカルフ以テ本條ニ於アハ單ニ占ムカ其性質ヲ變ス時ア明示スル必要アリ
ト認メ既成法典ノ主義ニ依リテ本條ヲ規定セリ然レトモ既成法典財產編第百八十五條第三項第一號
所存意思ヲ告知スヘキコトヲビト誰告之ト云フトキハ其適用次キ失ハルニ因リ本條ハ實

タ所有ノ意思アルコトヲ表示スヘレントシ明示又ハ默示ノ表示ヲ區別セサルコトト爲セリ

第一百八十六條 占有者ハ所有ノ意思ヲ以テ善意、平穎且公然ニ占有ヲ爲スモ
准之、

~~前後兩時ニ於テ占有ノ證據アルトキハ占有ハ其間繼續シタルモノト推定ス~~

(理由) 本條ハ占有権ニ關スル推定ノ規定ニシテ既成法典附編第百八十六條乃至第百八十八條ヲ經

括シテ カカニニ修正ヲ加ヘタリ既成法典ハ正權原ノ場合ノミヲ規定スト雖モ占有ノ保護ハ其正權原タルト無權原タルトヨ區別セサルヲ以テ本來ハ之ヲ省ケリ又既成法典ハ公然ノ占有ニ付テハ法律ノ

推定ヲ與ヘス而シテ其理由トスル所ハ公然ノ占有ヲ證明スルコトハ有的ノ事實ニ屬スルヲ以テ極メ

テ容易ナレハ之レカ爲メニ特ニ推定ヲ下ス必要ナシトスルニ在リ然レトモ占有有保護ノ必要上ヨリ一

般ニ推定ヲ下ス以上ハ獨リ公然ノ占有ヲ除外スル理由ナキヲ以テ本案ハ公然ノ占有ニモ法律ノ推定

ヨ與フルコトト爲セリ

自八十七條 占有者ニ有縁人ハ其選擇ニ從ヒ自ニハ占有ハミヲ主ノ占有ニ前主ノ占有ヲ併セテ之ヲ主張ズルコトヲ得

主ノ占有ヲ併セテ主張スル場合ニ於テハ其瑕疵モ亦之ヲ承繼ス

(理由) 本條ハ既成法典財產編第九百九十二條ノ修正レタルモノニシテ規定ノ形式ハ相似タリト雖も其主義ニ於テハ大ニ異ナレリ即ち既成法典ハ占有ノ合併ヲ以テ本則トシ相續人共他包括權原ノ承繼人

ハ前主ノ占有ヲ其性質及ヒ瑕疵ヲ以テ承繼シ只特定權原ノ取得者ノミ其利益ニ從ヒ自己ノ占有ノミ

ヲ主張シ又ハ前主ノ占有ヲ以併セテ主張スルコトヲ得ト爲セリ然ニ本棧ハ占有ノ分割ヲ以ア本則トシ承認ナハ可付遺原タルト寺它舊京タルトヲ問ヘズ其送奉ニ及ヒ自己ノ占有ナ前主ノ占有ト分割

シ又ハ之ト併合シテ主張スルコトヲ得トス蓋既成法典財產編第九十二條第一項ノ規定ニ依レハ前

主ハ善意ニシテ後主ハ惡意ナルトキハ前主ノ善意ヲ承継スルコトヲ得又前主ハ惡意ナレハ後主ハ善
意トニシテヨリ前主ノ惡意ヲ遺シニシテ不用意^レレ文モ^レシトニシテフリトレシヨリ書付^レサム^レ吉良ニ

意ナリノ如ニ批ニシテ苗王ニ見付シニ有給テ不利益ナリ交場ラモクキルハナニカヘバ好ニ甚不當ノ事無ニ

シ又ハ之ト併合シテ自己ノ占有ヲ主張スルコトヲ得ト爲セリ

不利益ナル點ヲ捨テ單ニ利益ナル點ノミヲ利用スルハ法律ノ許スヘカラサル所ニシテアノ事實ヲ
援用セントスルニハ固ヨリ其全體ヲ利用スケ其不利益ノ點ノミヲ取捨シコトヲ許サス之レ
本然第二項ニ於テ前主ノ占有ヲ主張セントル者、其現状ヲモ承繼セサルヘカラサルコトヲ規定ス
ル所以ナリ

第二二節 占有權ノ效力

(理由) 本節ハ既成法典財產編第四章第三節ニ依リ占有權ノ效果ヲ規定スルモノレ占有權ノ行使
使異質、重得、占有權取得の原因、特別訴權、登記其旨占有回復の場合ニ於ケル損害賠償、請求及七
之木ヲ留置權等ニ關スル條文ヲ包括セリ

第一百八十八條 占有者ガ占有物ト上ニ行使スル權利ト之ヲ適法ニ有スルモノト推定

定

(理由) 本條ハ既成法典財產編第九十九二條、字句ヲ修正シ又其一部ヲ削除シタルニ止マル既成法典
ハ法定占有等ヲ區別セサルニ因リ既成法典財產編第九十三條ノ法定ナル文字ヲ除キ以テ占
有ノ意義ヲ廣クセリ又本條ハ占有物ノ上ニ行使スル權利ト云フヲ以テ占有權ニ限ルニアワヌ貨
借權ノ如キ質權ノ如キ總テ占有物ト上ニ行使スル權利ハ反對ノ證據ナキ限ハ占有者カ適法ニ之ヲ有
スト推定スルセノニシテ占有有保護ノ要點ハ實ニ此ニ存蓋占有者ハ本權ノ訴ニ於テ常ニ被告位
立シコトハ此推定ニ本シテ權利行使ノ自然ノ結果トレシ生スル利益ニシテ特ニ明文ヲ以テ之ヲ指

定スル必要ナキヲ以テ本條ハ既成法典財產編第九十三條ノ末文ヲ除キタリ

第一百八十九條 善意ノ占有者ハ占有物ヨリ生スル果實ヲ取得ス

ト看做ス

(理由) 本條ハ既成法典財產編第九十四條ヲ修正セリ既成法典、正權原目ノ善意ノ占有者ハ果實ヲ
取得スト規定クト雖モ本條ハ權原ノ有無ヲ問ハサルヲ以テ正權原ナム文字ヲ除キ單ニ善意ノ占有者
トシ其場合ヲ廣クセリ又既成法典ハ果實取得ノ時期及ヒ方法ニ付キ細則ニ定ムト雖モ本條ハ既成
法典ノ規定を得シ關シ一般ノ規定ヲ設ケタルヲ以テ之之餘除ケリ次ハ既成法典財產編第九
十條第二項ハ正權原ノ有セナリ善意ノ占有者ハ消費シタル果實ヲ付利益ヲ得サリ證據ヲ舉ゲル
トキハ退還ノ責ニ付セバト雖モ本條ハ固ヨリ權原ノ有無ノ區別セス且善意ノ占有者ハ總テ
占有物ヨリ生スル果實ヲ取得シ得トスルヲ以テ占有有保護ノ目的ニ適スルモノト認ムルニ因リ此點ニ
於テも修正ヲ加ヘリ然レドモ所有ノ意圖ナキ善意ノ占有者カ果實ヲ取得シ得ヘヤ否ヤニ付テハ其
場合ニ依リテ特別ノ規定、從ヘク又本條ニ謂フノ果實ハ占有物ヨリ生スルモノノミナレハ天然
ノ果實ヲ指スニ止マリ法定ノ果實、如キ權利ヨリ生スルモノハ權利行使ニ關スル規定、准占所有ノ規
定ニ依リテ之ヲ修正ムルセントス

既成法典財產編第九十四條第三項前段ハ占有者ハ占有物カ自己ニ屬セサルコトヲ知リタルトキハ

將來ニ向ヒ果實返還ノ責ニ任スヘキコトヲ規定スト雖モ本條ハ既ニ本條第一項ニ於テ善意ニ占有者

ハ果實取得ノ權ヲ有スルコトヲ認ムル共ニ若シカ占有物カ自己ニ屬セサルコトヲ知リタルト

キハ既ニ善意ニアラサルヲ以テ其後ノ果實ハ之ヲ返還セサルヘカラナルコト明白ニ同條第三項

前段ハ之ヲ省ケリ然レトモ古有者本權ヲ返還セサル場合ニ於テ敗訴判決ニ迄皆乎占有物ハ

自己ニ屬スト信レタルトキハ起訴ノ時ヨリ敗訴三至ハマテ數多時日經過タルニ拘ヘラスト其間

ニ於ケル果實ハ古有者ニ屬ストルトキハ占有者ノ保護ニ備レテ相手方ニ保護モリト云ハサル

ヘカラヌ加ズ若シ敗訴ノ判決ニ至マテ占有者ハ果實ヲ取得スルコトヲ得トムトキハ種々ナフ手段

ヲ以テ殊更ニ訴訟ヲ延ハ不當利益ヲ食ヒコトナシトセス等ノ弊害ノントスルニハ假合善

意ノ占有者タリトモ本權ヲ訴於ア破定ニ敗訴スルトキハ起訴ノ時ヨリ惡意ニ古有者ト見做レ芝レ

ヨリ以後ノ果實返還ノ義務ヲ負ハレムル必要アリト認メ且如斯事項ハ法律明文アルニアラサレハ

爲能ハサルツアノ本條ハ既成法典第九十四條第三項末文ノ規定ニ倣ヒ本條第二項ヲ設ケタリ

第一百九十九條 惡意ニ古有者ハ果實ヲ返還シ且其既ニ消費シ過失ニ因リテ數損

シ又ハ收取ヲ怠ダル果實ノ代價ヲ償還スル義務ヲ負フ但果實ノ通常ノ貯藏タ

ル費用償還ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ハ強暴又ハ隱祕ニ因ル古有者三之ヲ準用ス

(理由) 本條ハ既成法典復舊編第一百九十五條ノ字句ヲ修正シタルニ過キス既成法典ニハ回復ノ請求ヲ

受ケタル物ヲ返還ヘキトヲ明示スト雖モ固ヨリ自明ノコトナレハ之ヲ省ケリ又本條第二項モ既

成法典同條第三項ノ簡約シタルニ止マリ實質ニ於テ異ナカル所ナシ

第一百九十一條 占有物カ古有者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ滅失又ハ毀損シタル
トキハ惡意ノ占有者ハ其回復者ニ對シ其損害ノ全部ヲ賠償スル義務ヲ負ヒ善意
ノ占有者ハ其滅失又ハ毀損ニ因リテ現ニ利益ヲ受クル限度ニ於テ賠償ヲ爲ス義
務ヲ負フ但所有ノ意思ナキ占有者ハ其善意ナルキト雖モ全部ノ賠償ヲ爲スコ
トヲ要ス

(理由) 本條モ既成法典復舊編第一百九十八條ノ字句ヲ修正シタルニ過キス既成法典ニハ物カ毀損シ又

ハ價格ヲ減シタル場合ヲ舉ケ其滅失シタル場合ヲ當マサヘハ猶ヘ失スト認ムヘヨ以テ本條ハ滅失又
ハ毀損ト改メタル其他本條但書ノ規定ハ新ニ加ヘタル例外ニテ善意ノ占有者ト雖モ所有ノ意思ヲ
有ヒス即チ他ニ所有者アルコトヲ知リタル場合ニ於テハ自己ノ責ニ歸スヘキ物ノ滅失又ハ毀損ニ付

テハ全部ニ賠償爲コトヲ要スルコト明カナレハナリ

第一百九十二條 平穏且公然ニ動産ニ占有フ始タル者カ善惡ニシテ且過失ナキト

(キ) 即時ニ其動産ノ上ニ行使スル權利ヲ取得ス

(理由) 本條規定ハ既成法典ニ於テ之ヲ即時効ト稱譯舊編第一百四十四條ニ規定スト雖モ時效ハ
時效過期ノ後效果ヲ受ケヘタリ規定ナレハ時效過期ニ關セサル即時ニ權利取得ヲ以テ

效ノ效果ニ歸スルハ理論上正當ノ見解、云フコトヲ得ヌ又即時時效ナル用語ハ法律上之意義ヲ爲す
 サルコトハ既ニ本來時效ノ章ニ於て説明シテ如クナレハ本條ニ於テモ即時時效ナリ曰解井其用語
 フ採用セス又動產ノ占有ニ因リテ即時時效ヲ得ル如キコトハ固ヨリ之占有權ノ
 效果トレテ規定スヘキモノニシテ時效ノ規定中ニ編入スルハ其當ヲ失スルモノト云ハサルベカラス
 何ナレハ如斯事項ハ時ノ效果ニ關係ナキモノニシテ其性質ハ全ク占有保護ノ規定ニ關スレハナリ
 要ベニ動產ノ如キ容易ニ所有者變更ル物一付アハ之ヲ所持スル者及ヒ第三者利害關係ノ爲
 メ完全ナム占有得ト共ニ法律力依テ即時所有權其他ノ權利ヲ取得シ得ルトヲ認ムル
 コト極メテ必要ナシヲ以テ本來モ既成法典第百四十四條ト其精神ヲ同フスト雖只之占右權ノ
 效果トシテ本節ニ規定セリ又既成法典ハ本條ノ規定ヲ以テ一種ノ推定ト認ムルニ反し本來ハ以太
 利西班牙、瑞士等ノ法律ト同一主義ニ依リ本條ア以テ占有權ノ直接效果トシテ權利取得ノ方法ト
 認ムルモノナリ

第一百九十三條 前條ノ場合ニ於テ占有物カ盜品又ハ遺失物ナルトキハ被害者又ハ
 遺失者ハ盜難入ハ遺失ノ時ヨリ二年間占有者ニ對シテ其物ノ回復ヲ請求スルコ
 トヲ得
 (理由) 本條ハ既成法典證據編第百四十五條ニ付句修正ヲ加ヘタルニ過キ同條第一項但書及第
 二項ハ本文ヲ要セスト認ムル因リテ之ヲ除ケリ蓋本來第百九十二條ノ規定ニ依リ占有者ヲシテ即

時ニ所有權ヲ取得スルコトヲ得セシムルハ之レ全ノ公益上ノ理由ニ基フクモノニシテ何レノ場合ニ
 モ此規定ヲ適用スルトキハ一方ニ於テ所有權保護、精神慰レニ至ルヘシ即チ本條ニ掲タル所ニ盛
 品又ハ遺失物、所有者ノ如キハ毫モ其所有權ヲ拋棄ヘ意思ヲ有セシ寧ロ之ヲ保有セントスル者ニ
 シテ所有物ノ失フ情況ニ於テ真ニ體ムキモノナリ然ルニ豈能スヘ遺失物ヲ占有スル者ヲシテ假令
 第百九十二條
 要件ヲ備フルモ即時ニ所有權ヲ取得セリノ所有者ヲシテ之ヲ失ハシムルハ體ニ失ス
 ト云ハサルヘカラヌ故ニ本來ニ於テモ既成法典ノ精神依テ第百九十二條ノ如キ公益上ノ理由ニ基
 フ規定ハ總テノ場合ニ適用スヘキモノニ非スト認メ本條ノ規定ヲ以テ其例外ヲ定メ所有權保護ノ
 精神ヲ全フセリ

第一百九十四條 占有者カ盜品又ハ遺失物ヲ競賣若クハ公ノ市場ニ於テ又ハ其物ト
 同種ノ物ヲ販賣スル商人ヨリ善惡ニ蒙買受ケタムトキハ其所有者ハ其實受代價
 フ辨償スルニ非ザレハ回復ヲ爲スコトヲ得ス
 (理由) 本條ハ既成法典證據編第百四十五條第一項ノ字句ヲ修正シタルニ止ム又同條第二項ハ損害
 権利ヲ取得ス

第一百九十五條 他人力飼養セシ家畜外ノ動物ヲ占有スル者ハ其占有ノ始善意十
 テ且二十日内ニ飼養主ヨリ返還ノ請求ヲ受ケタルトキハ其動物ノ上ニ行使スル
 権利ヲ取得ス

賭博ノ一般原則ニ從ハセモノナレハズ
 (理由) 本條ハ既成法典證據編第百四十五條第一項ノ字句ヲ修正シタルニ止ム又同條第二項ハ損害
 権利ヲ取得ス

(理由) 木條ハ既成法典由產取得編第十三條ニ當ルモノニシテ既成法典ハ之ヲ不動產上ノ添附ニ因ル所有權取得ノ方法ト爲ト雖モ如斯場合ハ占有ノ效果因ル所有權取得ノ方法タルク以テ本案ハ之

ヲ本節之編ヘセリ又既成法典ハ私有ノ魚、鳩、鶴、兔、蜜蜂云々如クの物ヲ限定スルニ拘ラ
ス本案ハ廣ク家屋外ノ動物ト改メタルハ目的的限定、其必要ナリミナラス却テ法律適用ノ範圍

ヲ不當ニ候ムモノナレハナリ其他既成法典ノ時日ヲ變更シタルハ一般ノ場合ニ通シテ相當ト認ム

キ期間ヲ以テ之代ヘタルニ過キス

~~第九十六條 占有者カ占有物ヲ返還スル場合ニ於テハ其物ノ保存ノ爲メニ費シタル金額其他ノ必要費ヲ回復者ヨリ償還セシムコトヲ得但占有者カ果實ヲ取
得シタル場合ニ於テハ通常ノ必要費ハ其負擔ニ歸ス占有者カ占有物ノ改良ノ爲メニ費シタル金額其他
有盡費三付テ其價格ノ増加現存スル場合ニ限リ回復者ノ選擇ニ從ヒ其費シタル金額又増價額ヲ償還
セシムコトヲ得但占有者ニ對シテハ裁判所ハ回復者ノ請求ニ因リ之ニ相当ノ期限ヲ許與スルコトヲ得~~

(理由) 本條ハ既成法典由產編第百九十六條ヲ修正セリ既成法典ハ占有者ノ善意タルト惡意タルト
ヲ問ハサルトヲ明示シ特雖モ本案ハ其必要ナシト認ム因リ單ニ占有者ト爲セリ又既成法典ハ
物ノ保存爲メニ費シタル金額ノミヲ揚クト雖モ或必要費用ニシテ然モ之ヲ保存費ト稱スルコト

第一百九十七條 上有者・後立者ノ規定ニ從ヒ占有ノ訴提起スルコトヲ得他人

~~占有者~~者亦同シ

(理由) 既成法典由產編第百九十九條ニ占有ノ效力トシテ四種ノ訴權ヲ認ムト雖モ本案ハ占有權之效
果トシテ本條以下數條ニ規定スル所ニ三種ノ訴ヲ提起スルコトヲ得トスルヲ以テ妥當リ認メ本

條一於「占有保護ノ本則ヲ示セリ即チ占有ニ對ス現再・妨害ニ付アハ保持ノ訴ヲ許シ未來・障害ニ對アハ保全ノ訴ヲ許レ過去ノ障害ニ付アハ回収ノ訴ヲ許シ而シテ保全ノ訴ニ依リテ既成法典ニ

謂所ノ新工告發訴權及急害告發訴權ノ事實ヲ認メタリ

次ニ木條後段ノ規定「占有ノ訴ハ一般ニ急害ヲ要スルモノニシテ訴訟ニ於テモ手續其他立證ノ方法ヲ異ニスル如キモナレハ他人ヲレ物ヲ占有セムル場合於テ本人ニ非サレハ占有訴起スルヲ得ストスルトキハ實際ノ不便甚シカルヘタ占有保護ノ精神ニ反スルヲ以テ他人ノ爲ミ占

有物ノ所持スル者モ占有ノ訴ヲ提起スルコトヲ許シ以テ占有保護ノ趣旨ヲ全ガラシムモノナリ

第百九十八條 占有者ヲ其占有ニ妨害セラレタルトキハ占有保護ノ訴ヲ

事レ停止及ヒ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

(理由) 本條ハ既成法典財產編第二百條ヲ修正セリ既成法典ハ同編第一百四條ニ於テ回収訴權ハ單行

弁造又ハ詐術一因ル占有奪取ノ場合ニ限り保持訴權ハ其人ノ奪取ノ場合ニ之を行コトヲ許セモノニシテ其範圍甚ニ廣クニ混同スルコトアリ故ニ本条占有奪取ノ場合ニハ總テ回収ノ訴ヲ許レ保

持ノ訴ハ未だ占有不失ハレシテ妨害ヲ受タル場合ニニ限リテ其區域ヲ明ニリ

第百九十九條 占有者カ其占有ヲ妨害セラル處アルトキハ占有保護ノ訴ヲ

其妨害ヲ豫防又ハ損害賠償ヲ擔保スルコトヲ得

(理由) 本條ハ既成法典財產編第二百一條及ヒ第三百三條ノ規定ヲ併合シテ之ニ修正ヲ加ヘタリ既成

法典ノ如ク危害ノ原因ヲ列舉スルハ徒ニ煩雜ナルノミラヌ之ヲ盡スコト能ハサルヲ以テ本条ハ廣

ク妨害アクトキ改メタリ又既成法典ハ新工告發及急害告發ノ訴權ハ共ニ不動産ノ占有者ニ屬スノ規定ヘトキ本条ハ如斯既定スル理由ナシト認ムニシテ動産ノ占有者モレト不動産ノ占有者タルトヲ問ハヌ本條ノ訴ヲ提起スルコトヲ許セリ其他既成法典同編第一百一條第二項ハ損害賠償ニ對スル擔保ヲシテ保證人ヲ立てレムルコトニ限ルト雖モ之其方法ヲ制限スル必要ナキヲ以テ本

禁ハ廣フ擔保ヲ請求スルコトヲ得ト改メタリ

第二百條 占有者カ其占有ヲ奪ハレタルトキハ占有回収ノ訴ニ依リ其物ノ返還及ヒ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

人カ侵奪ノ事實ヲ知リタルトキハ此限ニ在ラス

(理由) 本條ハ既成法典財產編第一百四條ヲ修正セリ既成法典ハ占有ニ奪取ハ暴行抑追又ハ詐術ニ原

シタル場合ニ限ルト雖モ本条ハ廣ク占有ヲ奪取セラレタルトキハ此ノ限定スル理由ナケレハナリ又既成法典同編第一項ノ但書ハ甚シテ危險ニシテ之ヲ反言スレハ是行者抑又ハ詐術ニ因リテ占有ヲ奪取セラレル者ハ又此等ノ手段ニ依リテ占有ヲ回復スル可ナリト云フ如キ解釋ヲ生スベシ故ニ本条ハ之ヲ刪除シテ一旦占有ヲ奪取セラレタル者ハ必スル・方法ニ依リテ之ヲ取戻スヘキコ

トヲ明ニセリ又本條第一項ハ既成法典財產編第二百四條第二項ニ聯繫修正・加ヘタルモノニシテ既

成法典同項但書ニテ特定委託人ハ不法ノ所爲ニ關シタルトニ限り尙外ヲ設クト雖モ本案ハ如斯
制限ハ却ク不當ニテ承認人カ一般ニ惡意ナリシトキハ本條第一項ノ訴ヲ受ケサルヘカラサルモノ
ト認ムニ因リ廣く侵害事實ヲ知ルヘキハ占有回収訴訟抗辯レムノト爲セリ

~~第二百一條 占有保持ノ訴ハ妨害ノ存スル間又ハ其止ミタル後一年内ニ之ヲ提起スルコトヲ得
スルコトヲ要ス但事ニ因リ占有物ニ損害ヲ生シタル場合ニ於テ其工事著手ノ
時ヨリ一年ヲ経過シ又ハ其工事ノ竣成シタルトキハ之ヲ提起スルコトヲ得ス
占有保全ノ訴ハ妨害ノ危險ノ存スル間ハ之ヲ提起スルコトヲ得但工事ニ因リ占
有物ニ損害ヲ生スル虞アルトキハ前項但書ノ規定ヲ準用ス
占有回収ノ訴ハ侵奪ノ時ヨリ一年内ニ之ヲ提起スルコトヲ安ス~~

(理由) 本條第一項ハ既成判例審議編第二百六條第一項ノ文字ヲ改メテノミ又第二項ハ既成法典同
條第二項第三項ノ相沿ハルモノニシテ聊カ之ヲ修正セリ即チ既成法典新工告發ノ訴權ハ工事ノ竣
成セサル間ハ之ヲ許スヘ雖も數年ヲ要スル工事ニシテ占有者カ之ニ因リ損害ヲ受クヘキ虞アルヲ
知リナカッタ以止上記觀례占有保全ノ訴ヲ起す、以上ハ最早此訴揚起ヲ許ス必要ナク工事
ノ竣成シタル場合ト同ニ既報ヲテ依テ委託認ムニ因リ本條第一項但書依テ新工著手後一
年ヲ經過レタルトハ占有保全ノ訴ヲ提起スルコトヲ許サスト改メタリ又既成法典同條第一項
ハ占有保持ノ訴ノ場合ヲ規定スルモノニシテ本條第一項ノ規定ニ依リテ明カナルヲ以テ之ヲ除~~除セ~~

第二百二條 占有ノ訴ハ本權訴ト互ニ相妨クルコト無シ

~~占有ノ訴ハ本權一關スル理由ニ基キテ之ヲ裁判スルコトヲ得ス~~

(理由) 占有ノ訴ハ本權訴トノ關係ニ付キ既成法典ノ採用所ニ主義ハ本權ノ訴ハ占有ノ訴ヲ包含ス
ルモノニシテ此兩訴訟併行スルコトヲ得ヌ又占有ノ訴ハ概不皆追述ヲ要スハルモノナレハ訴狀手續
上ノ理由ヨリ兩訴訟併合ヲ許サストスルモノニシテ既成法典第二百七條乃至第二百九條及ヒ第二百
十二條ハ此主義ニ依リテ規定セラレタリ本來ハ全ク之ニ異ナル主義ヲ取ムモノニシテ本權ノ訴ト占
有ノ訴トハ相互獨立シ互ニ相妨クルコトナシトス蓋占有ヲ以テ獨立セラ種ノ權ト認ムル以上
ハ之ニ關スル訴ハ訴狀上ニ於テモ一箇獨立ノ訴トレテ之ヲ取扱ニ依リテ法律ノ保護ヲ全フルセ
ノト云フヘシ故ニ本條第一項ハ本權ノ訴ハ占有ノ訴ト互ニ相妨ケルコトヲ明示レ本權ノ訴ノ提起
又ハ其判決ハ占有ノ訴ノ提起又ハ其判決ヲ妨タルコトナク本權ノ訴ヲ取下クルモ占有ノ訴ノ提起ニ
影響ヲ及ボスコトナシトセリ

木條第二項ハ既成法典判例審議編第一百七條第二項ト同一シテ本條第一項ノ自然ノ結果トシテ特ニ之
ヲ明示スル必要ナキカ如シト講モ或ハ本權審理ノ事實ニ因リテ占有ノ訴ヲ別扱スル虞ナシセス又
本權ノ訴ノ判決アレハ占有ノ訴ハ提起スルコトヲ得サルモノノ如ク疑シムルヲ以テ此等ノ疑惑ヲ
解キ且本權ノ訴ト占有ノ訴トハ互ニ獨立セルコトヲ明カナフシムルカ爲メテ本條ヲ存スルコトニ決

第三節 占有權ノ消滅

(理由) 木節「占有權消滅ノ原因ヲ異定スルモノニシテ既成法典附錄編第四章第四節ニ相當シ三說明ノ要アリ只本素於テハ消滅アル時ヲ用ヒ喪失ト云ハサヘ既ニ占有ヲ以テ權利ト認ムル以上ハノ通解トテ解説、暨アルヲ以テ本條ハ之ニ修正ヲ加ヘ原則ノヲ示セリ又本條但書ハ既成法典同法律ノ規定ニ因リテ權利ハ消滅スルモノナラヘ從來用例、從之ヲ變更セレント

第二百三條 占有權ハ占有者ヲ占有意思ヲ抛弃シ又ハ占有物ノ所持ヲ失フヲ因リ消滅スル占有者カ占有回収ノ訴ヲ提起シタレキハ此限ニ在ラス

(理由) 既成法典附錄編第二百三條ハ占有喪失ノ原因ヲ列舉ス、雖ニ其必要キノミナリスト列舉法ノ通解トテ解説、暨アルヲ以テ本條ハ之ニ修正ヲ加ヘ原則ノヲ示セリ又本條但書ハ既成法典同條第三號但書ト共應實ハニス即ナ占有者カ他人ノ爲ミニ占有ヲ侵奪セラレタル場合ヲ豫想シテ本則ニ對スヘ例外設ケルモノニシテ占有者カ實際其所持ヲ失フモ法律ノ規定セ定依リテ占有ハ繼續ス、ト認ムルセナリ蓋木素ハ占有者タルト所有者タルト問ハシ候事セラレタル占有物ヲ私力ヲ以テ回復スルコトヲ禁レタレハ若レ所持ヲ奪ハルト共ニ占有有權セ消滅スルトヨハ占有者ニ取リテ陪ニ失スト云ハサルヘカラス故ニ占有者自助ヲ禁スル代ニ本條但書ニ依リテ保護ヲ與ヘ占有者カ回収ノ訴ヲ起シタルキハ占有權ハ未タ消滅セスト見做セモノナリ

第二百四條 代理人ニ依リテ占有ヲ爲ス場合ニ於テハ占有權ハ左ノ事由ニ因リテ

消滅ス

一 本人カ代理人ヲシテ占有ヲ爲サシムル意思ヲ抛弃シタルコト

二 代理人カ本人ニ對シ爾後自己又ハ第三者ノ爲ミニ占有物ヲ所持スル意思ヲ表示シタルコト

三 代理人カ占有物所持ヲ失ヒタルコト

占有權ハ代理權ノ消滅ノミニ因リテ消滅セス

(理由) 木條ノ規定ハ既成法典ニ存セント雖ニ既ニ代理人ニ依リテ占有權ヲ取得シ得ルコトヲ認ムル以上ハ又代理人ニ依リテ占有ヲ爲ス場合ニ於タル占有權消滅ヲ規定スル必要アリト認メ多數ノ立法例ニ依リテ本條ヲ設ケリ又木條第二項ニ占有保護ノ爲ミニ設ケルモノニシテ代理人死滅シ又ハ無能力ナリタルトキハ代理權ハ消滅スル雖ニ本人ノ爲ミニ占有權ハ消滅セサルコトヲ認ムルセナリ

第四節 准占有

理由 権利ノ占有實際上多ク存在スル事實ニシテ之ニ關シテ特ニ規定ヲ設ケル必要アリト雖ニ本

章ノ規定ハ物權ノ一タル占有權ニ關スルモノナラヘ權利ヲ占有ニ關スル規定ハ其何レノ節ニも編入以上ハ又代理人ニ依リテ占有ヲ爲ス場合ニ於タル占有權消滅ヲ規定スル必要アリト認メ多數ノ立法例ニ依リテ本條ヲ設ケリ又木條第二項ニ占有保護ノ爲ミニ設ケルモノニシテ代理人死滅シ又ハ無能力ナリタルトキハ代理權ハ消滅スル雖ニ本人ノ爲ミニ占有權ハ消滅セサルコトヲ認ムルセナリ

第二百五條 本章ノ規定ト自己ノ爲メニキヌル意忠ヲ以テ財產權ト行使ト爲ス場合

七之七 準用ス

(理由) 既成法典財產權第百八十九條ハ權利ノ實行ニ依リテ其占有ヲ取得レ得ルヲ認ムト雖モ本來ハ既ニ第一百八十九條ニ於テ占有權の目的物ハ有體物タルヲ明示セリ蓋占有保護ノ沿革ハ物ノ所持ヲ保護スルニ始マリ終ニ一種ノ物權トテ保護ヲ受クルニ至リタルモノナリト誰モ學理上其性質ヲ極ムルトキハ占有權ハ總ノ權利ノ現實ノ行使ニシテ占有ハ總ノ權利ノ占有ト稱スルコトヲ得ヘシ然レトモ既ニ占有權ハ物權ニシテ物之上ニ行ハル權利トスル以上ハ他ノ權利ト以テ其目的ト爲スコトヲ得サルハ明カニレナ他ノ權利ヲ自己ノ爲ミニスル意思ヲ以テ實際ニ行使スル場合ニ於テハ其權利ハ物權タル人權タヘト問ハス公私上此事實ヲ保護スル必要ハ有體物ノ占有ヲ保護スル異ナルコトナレ而シテ此場合ニ於テ諸國ノ法律ハ其保護ノ範圍ヲニセス羅馬法ハ所有權ニ限りナリヨリヒ及ビ、ハイエルン民法ハ物權ノ行使ニ限リテ准占有ヲ認ムト換本利民法ハ財產權ニ限り佛蘭西及ヒイタ利民法ハ身分權ニ迄准占有ヲ認ムルカ如シ本來ハ准占有ヲ認ムル以上ノ物權ト人權トヲ問ハス苟も自己ノ爲メニスル意忠ヲ以テ行使スル財產權ハ凡テ占有有權ト同様ノ保護ヲ與フヘキモノナリト信レ本條ニ依リテ占有權ノ關スル本章ノ規定ハ總デ之ヲ准占有ニ准用スヘト規定セリ